

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
幻	ゲン まぼろし 常①								伊関仏藏碑 九経・禮碑(漢文) 豊替指歸
幼	ヨウ おさない 教6常①								九経・禮碑(漢文) 王勃詩序
幽	ユウ かすか 常①								蘭亭序 孟敬訓墓誌 雁塔聖教序 豊替指歸
幾	キ いく 常①								千景墓誌 等慈寺碑 千祿字書 王勃詩序
広	コウ ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる 教2常①								曹全碑 十七帖 集字聖教序 孫秋生造像 孟法師碑 九経・序 王勃詩序
廣	人②								敦煌漢簡 礼器碑陰
庁	チョウ 教6常①								千祿・序
廳	人②								
廳	②								

【広】「廣」の略字で、明治時代にはすでに使われていたようだ。「黄」がなぜ「ム」に略されるのか理由がわからない。
【庁】「庁」「廳」は「廳」の略字。江戸期には「广」ではなく「广」で書かれることもあった。中国も「广」の字。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	幻	幻	幻				幻	幻	幻	幻		幻 中国・台湾
		么										幻 香港
	幼	幼	幼				幼	幼	幼	幼		幼 中国・台湾
	幼	幼										幼 香港
	幽	幽	幽	幽	幽		幽	幽	幽	幽		幽 中国・台湾
												幽 香港
	幾	幾	幾	幾	幾		幾	幾	幾	幾		幾 千祿(通) 中・台・香
												幾 陸軍(本字)
	廣	廣	廣	廣	廣		廣	廣	廣	廣		广 中国
												廣 台湾
	庁	庁	庁	庁	庁		庁	庁	庁	庁		庁 中国
	廳	廳	廳									廳 台湾
												廳 香港

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
庄	ショウ 人①								庄 豊替指歸
莊	ソウ 常①								莊 豊替指歸
莊									莊 豊替指歸
庄									庄 豊替指歸
序	ジョ 教5常①								序 王勃詩序
床	ショウ とこ ゆか 常①								床 豊替指歸
牀	ショウ ソウ ねだい ゆか ②								牀 豊替指歸
									床 豊替指歸
									床 豊替指歸
庇	ヒ おおう かばう ひさし 人①								庇 豊替指歸
庚	コウ かのえ 人①								庚 豊替指歸
									庚 豊替指歸
底	テイ そこ 教4常①								底 豊替指歸
									底 豊替指歸

【庄】「庄」と「莊」は現在の日本では別字として使われているが、中国では「莊」も「庄」の区別はなく、どちらも「庄」と書く。台湾と香港は大陸中国とは異なる。『明治の漢字』の「莊」の項に「許容字」として「庄」があり、『陸軍幼年学校用字便覧』には「莊」と「庄」を「實へ別字」とあるので、日

本でも明治から昭和のはじめの頃は通用していたのだろう。【床】「牀」は異体字。干禄字書では「牀」を〈正〉、「床」を〈俗〉としている。『明治の漢字』では「牀」を標準、「床」を許容字としている。『陸軍幼年学校用字便覧』では「牀」と「床」を同字としている。「牀」も「床」も咎なし点が付くこ

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
庄	庄	庄	庄				庄					庄 中国
莊	莊	莊	莊				莊	莊	莊	莊		莊 台湾 莊 香港
庄	庄	庄	庄				庄					庄 千禄(俗) 庄 江戸千禄(通)
							庄					庄 陸軍
序	序	序	序	序			序	序	序	序	序	序 台湾 序 中国・台湾
床	床	床	床	床			床	床	床	床		床 千禄(俗) 床 中国・台湾
牀	牀	牀	牀	牀			牀					牀 千禄(通) 牀 香港
							牀					牀 明治の漢字(標準) 牀 王勃詩序
庇	庇	庇	庇				庇					庇 台湾 庇 香港 庇 中国
庚	庚	庚	庚				庚					庚 中国・台湾
							庚					庚 香港
底	底	底	底	底			底	底	底	底	底	底 中国
							底					底 台湾 底 香港

とがある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
店	テン みせ たな								店 杜家立成
府	フ		府	府	府	府	府	府	府 王勃詩序
			府						
庖	ホウ		庖						庖 杜家立成
庖									
度	ド タ たび		度	度	度	度	度	度	度 法華義疏
			度	度	度	度	度	度	度 聖武天皇筆
			度	度	度	度	度	度	度 杜家立成
庫	コク くら		庫	庫	庫	庫	庫	庫	庫 王勃詩序
			庫						
座	ザ ずわる						座	座	座 王勃詩序
庭	テイ にわ		庭	庭	庭	庭	庭	庭	庭 王勃詩序
			庭	庭	庭	庭	庭	庭	庭 杜家立成
			庭	庭	庭	庭	庭	庭	庭 杜家立成

【度】説文には「又」に、五経文字では「廿」に、康熙字典には「广」に分類されている。

【座】漱石は「座」と「坐」を混用しており、使い分けの法則性は無いようだ。太宰は「坐って」「歌舞伎座」「銀座」のように使い分けしている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
店	店	店	店	店			店	店	店	店	店	店 香港
府	府	府	府	府			府	府	府	府	府	府 中国
庖	庖	庖	庖	庖			庖					庖 中国・台湾
度	度	度	度	度			度	度	度	度	度	度 中国・台湾
庫	庫	庫	庫	庫			庫	庫	庫	庫	庫	庫 中国
座	座	座	座	座			座	座	座	座	座	座 香港
庭	庭	庭	庭	庭			庭	庭	庭	庭	庭	庭 中国・台湾

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
庵	アン いおり			庵	庵				
菴	②								
菴									
康	コウ やすい	康	康	康	康	康	康	康	康
		康	康	康					
		康	康	康					
庶	ショ	庶	庶	庶	庶	庶	庶	庶	庶
		庶	庶	庶					
庸	ヨウ つね もちいる	庸	庸	庸	庸	庸	庸	庸	庸
		庸	庸	庸					
廢	ハイ すたる すたれる		廢	廢	廢	廢	廢	廢	廢
廢	②		廢	廢			廢	廢	廢

【康】説文解字では禾部に分類されていて、例示字体には禾が付いているがそのような字体は他にみつからない。禾のない「康」は或体になっている。

【庸】説文解字も五経文字も用部に分類されている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	庵	庵		庵	庵		庵					庵 中国・台湾
					菴							菴 香港
					菴							
康	康	康	康	康			康	康	康	康	康	康 中国
												康 台湾
												康 香港
庶	庶	庶	庶	庶			庶	庶	庶	庶	庶	庶 中国
												庶 香港
庸	庸	庸	庸				庸	庸	庸	庸	庸	庸 中国
												庸 台湾
												庸 香港
廢	廢	廢	廢	廢			廢	廢	廢	廢	廢	廢 中国
								(廢)				廢 台湾
												廢 香港

